

「カイゼン」推進会議における各校の業務改善計画（案）に関する提案

- 各取組実践検証校で検討を進めてきた業務改善計画（案）（資料5参照）の取組の実効性を高めていくため、有識者、民間コンサルタント、市教委関係者、各校校長が、重点テーマを定めて、ワークショップ形式で提案を出し合った。
- 各取組実践検証校においては、こうした提案を参考しつつ、本年度内に各校で業務改善計画をとりまとめ、来年度から具体的な取組を推進していく。
- 各取組実践検証校が策定した業務改善計画については、今後、市町村教育委員会や県立学校に幅広く情報提供を行っていく。

<「カイゼン」推進会議の概要>

日時：平成30年1月18日（木） 午前10時から午前12時まで

場所：愛知県教育委員会教育委員会室

出席者（ワークショップ参加者）：

区分	氏名	所属・役職
有識者	木岡 一明	名城大学農学部 キャリア教育研究室 教授
民間コンサルタント	伊藤 亜貴子	A&N合同会社 代表
民間コンサルタント	有冬 典子	有冬C&Cコンサルティング 代表
市町村教委	風岡 治	豊橋市教育委員会教育政策課 事務指導主事
市町村教委	萩野 登記代	あま市教育委員会 教育部 次長
実践検証校学校長	金子 明子	豊橋市立豊小学校長
実践検証校学校長	中野 義彦	あま市立七宝北中学校長
実践検証校学校長	田中 耕太郎	愛知県立江南高等学校校長

（計8名）

1 豊橋市立豊小学校：重点テーマ「保護者・地域との連携の推進」

○ 保護者・地域活用の戦略の明確化と説明

- ・家庭・地域にとってのメリットの提示
- ・全員参加型の学校運営（校長としてボトムアップを装うふるまい、PTA会議もワークショップ方式で（横浜市立永田台小学校の事例））
- ・教員の授業公開の推進（地域の方が学校に入っても当たり前为学校づくり）
- ・大括りの組織化と自主的な内部分化
- ・守秘義務の重要性を地域に周知

○ 学校と家庭・地域が協働するための仕組みの構築

- ・コミュニティスクール、地域学校協働本部の立ち上げ
- ・地域コーディネーターの校内外に1人ずつ選任
- ・地域コーディネーターの活用・育成
- ・質の高い人財の確保（例：教え子が多いなど地域に浸透している教員）

○ 保護者・地域に対する協力の呼びかけ

- ・市教委での呼びかけの一本化
- ・活動の意義と支援方法の説明様式の統一（呼びかけの基本フォーマットの作成）
- ・ボランティア募集のホームページの活用
- ・各地区の区長に依頼、学校OB・OGのリスト化（卒業時に登録）
- ・校区の中学校、幼稚園、保育園、子ども園との連携
- ・子ども会、町内会への協力依頼
- ・学校だよりを地域にも配布

○ 連携のための調整業務の工夫

- ・PTAを巻き込み、運営を任せる。
- ・教委の指導主事が窓口になる
- ・ボランティアの連絡網の作成（行事ごとに）
- ・教頭だけではなく、2人のボランティア代表と管理チームを作る。
- ・手順のマニュアル化による窓口教員との対面調整を少なくする。
- ・学校連絡メールの利用を前提としたアプリ「調整さん」の活用

<有識者のコメント>

・学校だけではなく保護者や地域にとっても意義のある活動であることを理解してもらう必要がある。また、幼稚園・保育園・子ども園と保護者との関係が近いので、そのネットワークを活かせるような園・小学校連携の視点も必要である。

2 あま市立七宝北中学校：重点テーマ「年休取得の促進」

○ 管理職の指導による取得促進

- ・管理職の率先取得（年間15日以上）
- ・在校時間を年休代替にカウントして取得を命じる
- ・子供が下校後に複数回、時間休の取得を促す。

（課題）

- ・ 仕事のため帰宅できない職員に、管理職が年休取得を促すのは難しい

○ 計画的な取得に向けた体制づくり

- ・年休取得ガイドラインの作成
- ・年休取得計画表の年度当初の策定、他の教員の年休取得計画の「見える化」
- ・学年単位・教科単位でローテーションモデルを検討するなど年休取得日の調整
- ・長期休業中の会議・研修の削減
- ・「休もうキャンペーン」の実施
- ・記念日取得、健康増進（スポーツジムなど）取得などの理由付けの活用

○ ライフの充実

- ・年休のある生活が当たり前と考える職員集団の形成
- ・休むことが大切であるという文化の醸成（休むことへの罪悪感の解消）
- ・教員一人一人が年休を取ってやりたいことを持つような生活の充実

○ 各教員の働き方の見直し

- ・業務のメリハリをつけ、在校時間を削減する工夫を常に考える意識改革

○ 授業の空き時間への対策

- ・年休を取得しても困らない授業の在り方の検討
- ・合同授業の実施
- ・授業のコマ単位での代替講師の配置

<有識者のコメント>

- ・年休の取得促進は、ワークライフバランスにおける健康管理が主たる目的であり、長時間労働の削減に向けた働き方改革が目的の取組とは分けて考える必要がある。
- ・年休取得促進に教員の意識改革については、まずは、管理職自らが率先して取得する姿勢を示すことが重要である。

3：愛知県立江南高校 重点テーマ「補習の見直し」

○ 学校としての学力到達の目標の共有化

- ・年間指導計画の作成とそれに基づくPDCAサイクルの実行
- ・教科会の活用、協力して一貫した体制づくり

○ 教員の授業力の向上・日々の授業の充実

- ・教員研修の充実
- ・教材研究の時間の確保、教員自身が学べる場づくり
- ・中堅教員や教育委員会指導主事などによる授業指導の実施
- ・他校の授業実践の見学
- ・問題プリントの作成、蓄積して繰り返し活用できる体制づくり

○ 生徒の自学自習の推進

- ・生徒の自主性を育むことを目指したプロジェクトチームの設定
- ・生徒のキャリアプランを考える機会の設定
- ・アクティブラーニングを踏まえた生徒に考えさせる授業の実施
- ・生徒による小テスト問題の作成
- ・よい問題集や学習アプリ（例：「英単語アプリ「みかん」」）の有効活用

○ ICTの活用

- ・ビデオ教材、オンライン学習（YouTube など）の活用に向けた環境整備
- ・マークシート方式によるテストの実施による採点時間の短縮

○ その他

- ・卒業生、学生ボランティアの活用
- ・授業後から早朝への時間移行による時間の短縮化
- ・中高連携の推進による学校の取組の情報発信
- ・正規の授業後の補習の廃止

<有識者のコメント>

- ・新任教員の大量採用が続いているため、特に重要なのは、研修の充実などの若手教員の資質の向上のための取組である。